



令和 2 年 1 月 2 9 日
自動車局 貨物課

成功事例に学べ！「中継輸送の取組事例集」をとりまとめました

～中継輸送で実現するトラックドライバーの働き方改革～

中継輸送は、トラックの長距離運行を複数のトラックドライバーで分担する輸送形態であり、日帰り勤務を可能とすることにより労務負担の軽減や人手不足の緩和に資する方法のひとつとして注目されています。中継輸送の普及促進のため、トラックドライバーの働き方改革に繋がる「実行モデル」となるよう、事業者の中継輸送の取組内容や成功の秘訣等を「**中継輸送の取組事例集**」として取りまとめました。

- 特にトラック運送事業の長距離輸送の分野では、泊付きの拘束時間が日帰り運行より長時間に及ぶ傾向が高く（※）、この分野におけるトラックドライバーの働き方改革は喫緊の課題です。

（※）泊付き運行：273.1 時間、日帰り運行：238.6 時間（平均的なドライバーの 1 か月の労働時間（平成 27 年 7 月実績）国土交通省調べ）

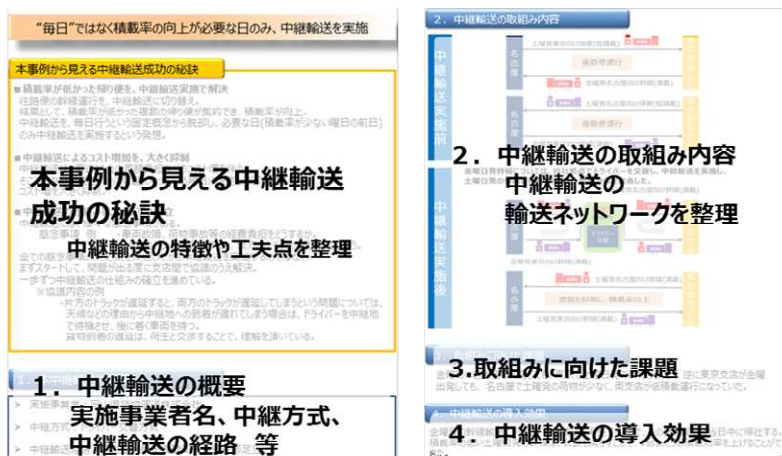
- 国土交通省では平成 29 年 3 月に『中継輸送の実施に当たって（実施の手引き）（以下「手引き」という。）』を策定し、中継輸送の実施に向けてトラック運送事業者が検討すべき手順等をまとめました。

【手引きの掲載HP】 <http://www.mlit.go.jp/common/001178753.pdf>

- 手引き策定後、様々な事業者で中継輸送の取組が進められたことから、各事業者の中継輸送の取組内容や成功の秘訣等を取りまとめ、他の事業者が中継輸送を始める際の参考となる「実行モデル」となるよう、「中継輸送の取組事例集」をとりまとめました。

【事例集の掲載HP】 http://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_tk4_000103.html

（事例集の構成イメージ）



【問い合わせ先】

自動車局貨物課 鈴木、上中

代表：03-5253-8111（内線 41-313） 直通：03-5253-8575 FAX：03-5253-1637

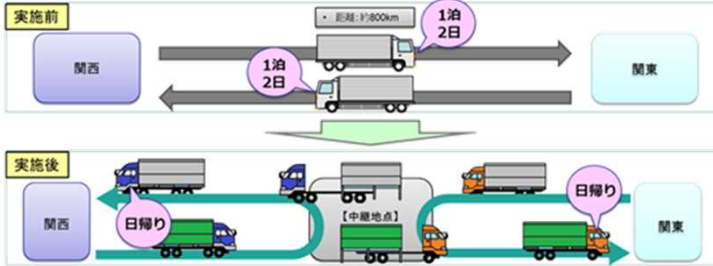
「中継輸送とは」

長距離運行を複数のドライバーで分担する輸送形態



労務負担の軽減や人手不足の緩和に資する

【中継輸送イメージ（日帰り運行の実現例）】



【中継輸送の実施に当たって（実施の手引き）】

平成29年3月に、中継輸送の実施に当たって検討すべき事項や必要となる資料等について、分かりやすく解説した**手引書を作成**

<手引書の項目>

- ・中継輸送の実施ルール、枠組み、運用の詳細、協定書の項目例 等

■大まかに運行図を作ってみる
ここで決まった経路で、一度、大まかな運行図を作ってみましょう。
以降、相手のトラック事業者と詳細の検討をすることによって、活用する事ができます。



中継輸送取組事例集について（令和2年1月29日公表）

【事例集の掲載HP】

http://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_tk4_000103.html

- ・手引きの策定後、様々な事業者で中継輸送の取組が進展



- ・各事業者の中継輸送の取組内容や成功の秘訣等を取りまとめ、他の事業者が中継輸送を始める際の参考となる「実行モデル」となるよう、「中継輸送の取組事例集」を公表

<主な内容>

- ・中継輸送の実施方式の説明（①トレーラー・トラクター方式、②貨物積み替え方式、③ドライバー交替方式）
- ・中継輸送の実施方式（上記①～③）、実施方法（「自社単独」、「複数事業者連携」）に分けて整理
- ・事例ごとの取組内容や中継輸送成功の秘訣を記載

【構成イメージ】

“毎日”ではなく積載率の向上が必要な日のみ、中継輸送を実施

本事例から見える中継輸送成功の秘訣

- 積載率が低かった帰り便を、中継輸送実施で解決
往路便の斜線運行を、中継輸送に切り替え。
結果として、積載率が低かった複数の帰り便が集約でき、積載率が向上。
中継輸送を、毎日行うという固定概念から脱却し、必要な日（積載率が少ない曜日の前日）のみ中継輸送を実施するという発想。
- 中継輸送によるコスト増加を、大きく抑制
中継輸送によるコスト増加を抑制する。コスト削減を実現している。
- 中継輸送による労務負担の軽減
労務負担の軽減を実現している。

本事例から見える中継輸送成功の秘訣

中継輸送の特徴や工夫点を整理

※協議内容の例
片方のトラックが遅延すると、両方のトラックが遅延してしまうという問題については、天候などの理由から中継地への到着が遅れてしまう場合は、ドライバーを中継地で待機させ、後に着く車両を待つ。
貨物到着の遅延は、荷主と交渉することで、理解を頂いている。

1. 中継輸送の概要
 - > 実施事業者名、中継方式、中継輸送の経路 等

2. 中継輸送の取組内容

中継輸送実施前

2. 中継輸送の取組内容
中継輸送の輸送ネットワークを整理

中継輸送実施後

3. 取組に向けた課題

全日中継輸送の実施により、逆に東京支店が全日中継輸送を実施し、名古屋で土曜発の荷物が少なく、両支店が低積載運行になっていた。

4. 中継輸送の導入効果

全日中継輸送の実施により、1日中に帰社する積載率を向上し、土曜日の積載率を上げることで、